

## 災害リスク情報の利活用場面調査様式

ここに挙げられた事例は、平成20年度の防災WGにおいて募集した利活用場面について、扱われる情報項目や場面等について事務局側で分析したものです。

平成22年5月

タイトル	任意地点における各種災害ハザードの起こりやすさマッピング		
概要	<p>●過去の自然災害に関する記録データ、ハザード・被害想定データ、被害予測シミュレーション評価データ等を利用して、任意の地点における各種災害のハザードの起こりやすさ、被害想定・被害予測情報、インフラ等復旧期間の想定情報、その他関連する情報(断層位置、避難所の位置、避難ルート等)をマッピングする。これによって自助、BCP、緊急時計画・減災計画策定・復旧計画策定などに役立てる。</p>		
情報項目 (事務局想定)	<p>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</p> <p>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊、流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</p> <p>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</p>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用した、自助、BCP、緊急時計画・減災計画・復旧計画等の策定支援		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、企業	Webサービス事業者	行政機関、企業、居住者、居住予定者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	ユーザーからのアクセス時
			被害想定算出時/防災計画等の策定時/BCP作成時/不動産購入検討時/避難路・避難場所確認時
利用する場所(避難所、自宅、野外等)	行政機関事務所、企業オフィス等	データセンター等	自宅、野外
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット等	PC、携帯電話

タイトル	不動産購入時のリスク評価		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用して、特定の不動産に想定される地震や洪水による土地・建物の被害レベル、被害額等に関する評価を支援する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水想定区域被害額メッシュ(一般資産額、)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用目的	過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用した不動産の災害リスク評価支援		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	不動産業者	不動産業者	居住者、居住予定者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体的なタイミング	顧客提案実施時	顧客提案実施時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	オフィス	オフィス	オフィス
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	災害リスク情報の取得によるまち作り計画策定支援			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用して、地区別の人口密度やDID 範囲、土地利用状況、防災拠点や福祉施設等の立地の各種情報と災害リスク情報(揺れやすさ、活断層(確率、地上における断層のズレの想定範囲)、液状化、内水・外水(降水量等外力のレベルと浸水範囲、浸水深)、津波、延焼・倒壊率)と比較(地図データ上での重ね合わせ等)してまち作り計画策定を支援する。</li> </ul>			
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域被害額メッシュ(一般資産額、公共土木施設被害額)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> </ul>			
追加すべき情報項目				
利活用の目的	過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用したまち作り計画策定支援			
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ	
	地方公共団体	地方公共団体	地方公共団体	
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時	平常時
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	まち作り計画提案時	まち作り計画策定時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	地方公共団体の事務所	地方公共団体の事務所	地方公共団体の事務所	
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等	

タイトル	路線設計時のルート決定支援		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用して、道路の路線設計時にリスク情報と重ね合わせ危険箇所を通るルートを避ける等に利用する。路線設計時には、ルートを数パターン用意することになるが、その際の選定基準として、リスク情報に基づく評価結果を利用する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水想定区域被害額メッシュ(一般資産額、農作物被害額、公共土木施設被害額)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(範囲)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用した道路の路線設計支援		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、建設コンサル	行政機関	行政機関、建設コンサル
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体のタイミング	-	路線設計時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	行政機関の事務所、建設コンサルのオフィス	行政機関の事務所	行政機関の事務所、建設コンサルのオフィス
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、CADソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	洪水・津波シミュレーションの応急対策活動への活用		
概要	<p>●平常時に、洪水・津波シミュレーションを利用して、応急対策活動に係る計画検討や自助(自主避難)に活用する。様々なパターンの時系列の氾濫シミュレーション(複数河川・破堤箇所別の時系列氾濫シミュレーション)を行っておく。警戒期、応急対応期に、平常時に実施した時系列の氾濫シミュレーション結果と他の情報とを重ね合せマッピングする。過去及び既存の自然災害情報(ハザード、被害想定・予測等)を利用して、道路の路線設計を支援する。</p>		
情報項目 (事務局想定)	<p>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)</p> <p>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...)、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域被害メッシュ(一般資産額、農作物被害額、公共土木施設被害額)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</p>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	洪水・津波シミュレーションを利用した応急対策活動		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関	Webサービス事業者	行政機関、居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時、警戒期、応急対応期	平常時、警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成/ 応急対応期に災害データを随時更新	避難計画立案時 避難経路検討時(行政機関) 自主避難時(居住者)
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	行政機関の事務所	データセンター等	行政機関の事務所、自宅、野外
利用する方法(携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料、防災無線等	インターネット、資料、防災無線等

タイトル	揺れ伝播シミュレーションを活用した到達時間の把握		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去の地震に関する情報(震源位置やマグニチュード)を利用して、震源からの揺れの伝播に関するシミュレーション(緊急地震速報に用いられている計算手法を使用:震源からの揺れの伝播の状況をアニメーションで表示)を活用して揺れ到達時間(余裕時間)を把握し、自助等に活用する。また地震が起きた際の特定地点での震度、揺れの到達時間等をマッピングし、他の情報と重ね合わせる。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:震源(断層基準点、地震モーメント、マグニチュード、...)、地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、地表最大加速度、地表最大速度、基盤最大速度、SI値)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	震源からの揺れの伝播に関するシミュレーション(緊急地震速報のシミュレーション)を利用した揺れ到達時間(余裕時間)の把握・活用		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	企業	Webサービス事業者	企業、居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時・発災時	平常時・発災時
	具体のタイミング	-	揺れやすさ情報提供時
		揺れやすさ情報提供時	避難方法検討時、避難時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	オフィス	データセンター等	自宅
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、専用解析ソフト等	インターネット、防災無線等	インターネット、防災無線等

タイトル	一般個人向けの防災対策情報の提供		
概要	●指定した特定の地点(住宅、企業等)における居住環境、季節・時節等の条件に対応した災害リスク情報と、備えておくべき防災グッズ、防災対策の優先付けに関する情報を取得し、その結果をマッピング・重ね合わせる。		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(範囲)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	特定地点における居住環境、季節・時節等の条件に対応した災害リスク情報と、備えておくべき防災グッズ、防災対策の優先付けに関する情報を取得		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	防災関連企業	防災関連企業	居住者
利用する時点、タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	防災グッズ販売時
			防災グッズ購入時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	自宅、オフィス	企業オフィス	自宅
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	旅行者・観光客等の自助のためのリスク対処情報マッピング		
概要	<p>●旅行者・観光客等が、自助の一環として、事前に目的地におけるハザード・リスクの状況やリスク遭遇時の対処方策に関する情報を取得する。旅行・移動先の災害ハザード・リスク、リスク遭遇時の対処方策、災害が起きた際に向かうべき重要施設の位置(避難所・避難施設、病院等)、災害時に利用可能な交通手段等に関するわかりやすい情報をマッピング、あるいはポップアップ表示する。</p>		
情報項目 (事務局想定)	<p>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</p> <p>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...)浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</p> <p>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)</p>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	旅行者・観光客等の自助の一環として、事前に目的地におけるハザード・リスクの状況やリスク遭遇時の対処方策に関する情報を取得		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	学校、居住者、企業、住民団体、NPO	Webサービス事業者	旅行者・移動者
利用する時点、タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体のタイミング	-	-
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	事務所、オフィス等	データセンタ等	自宅、外出先
利用する方法(携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末、カーナビ等

タイトル	洪水警戒期の予想リスク情報の険路検索マップへの反映		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経路情報提供事業者が、洪水警戒期の予想リスク情報(はん濫範囲、到達時刻、要警戒区域、要援護者などが自主避難の目安とする情報)を得て、経路探索マップにそれらの情報を組み込む</li> <li>● 経路探索マップ利用者は、洪水警戒期に、経路探索(洪水警戒期の予想リスク情報が反映されている)により、安全に自宅から避難所まで移動可能な経路に関する情報を得る。</li> <li>● 警戒期において、リアルタイムはん濫予測情報を踏まえた経路検索サービスを利用して、安全に避難することができる経路を検索・確認する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【地震・津波想定データ】</b>:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)</li> <li>● <b>【洪水被害想定データ】</b>:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>● <b>【土砂災害被害想定データ】</b>:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、その他公共施設、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる公共施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	リアルタイムはん濫予測情報を踏まえた経路検索サービスによる、安全な避難経路の検索・確認		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地図データ作成事業者	ナビゲーションコンテンツサービス事業者	居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期	警戒期
	具体のタイミング	-	経路検索時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	事業者のオフィス等	事業者のオフィス等	自宅、野外
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、専用解析ソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末、カーナビ等

タイトル	災害対応状況やリスク情報の共有		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web GIS、Desktop GIS およびWiki、Blog 等の非定型のコミュニケーションツールを利用して、これまでの災害対応において、各機関等で整備されてきたハザードマップ、被害状況マップ等の災害リスク情報とその運用状況をアーカイブ化する。・過去の履歴データやログの整備が必要。また、行政、居住者等が持つ文字情報に位置情報を付加して、検索できるようにすることが必要。・防災(危機管理)サイクルの4つのフェーズ((準備;データモデルの構築)、(危機対応;データの収集・作成)、(復旧・復興;データの共有・蓄積)、(防災・減災;データモデルの検証))を基本として整備する情報システム(統合型総合リスク評価システム)を開発・利用する。</li> <li>●予想される災害に対して、地域の災害対応関係機関、地域住民、ボランティア等間での情報共有・意見交換の場を提供し、地域に実情に適合した災害予防活動の実施を支援する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、...)、設定条件、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、...)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、...)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域被害額メッシュ(家屋資産額、家庭用品被害額、...)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、...)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、...)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、...)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、...)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、...)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区...)、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、...)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象・公共施設・災害弱者施設、...)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、...)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数・当該箇所、...)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、...)、鉄道運行情報(鉄道会社名、復旧見通し、...)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	地域の災害対応関係機関、地域住民、ボランティア等間での情報共有・意見交換の場を提供、地域に実情に適合した災害予防活動の実施支援		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	災害対応機関、住民団体・NPO、居住者	災害対応機関、住民団体・NPO、居住者	災害対応機関、住民団体・NPO、居住者
利用する時点、タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時、警戒期、応急対応期	平常時、警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	-	-
利用する場所(避難所、自宅、野外等)	事務所、オフィス等	データセンタ、事務所、オフィス等	自宅、野外
利用する方法(携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末等

タイトル	「道路の安全度マップ」の提供		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路の災害危険度を、想定浸水区域、地震の揺れやすさ、土砂災害の危険度等により5段階等で評価する(たとえば、マップ上で、特定の線やエリアを指定することにより、危険度を5段階で表示する)。行政側はこの結果を道路の改修等を行う必要性の評価の指標として役立てる。</li> <li>●複数の災害リスク情報を組み合わせた各種の評価は、研究分野のニーズも大きいと考えられる。</li> <li>●複数の災害リスク情報を基に道路の災害危険度を評価しリスクマップを作成。評価した「道路の安全度マップ」をwebGISで提供することやカーナビ会社から提供することで、住民等の避難等に役立てる。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、その他公共施設、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる公共施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	道路の災害危険度を評価しリスクマップを作成。評価した「道路の安全度マップ」をwebGISで提供して、住民の避難等に利用		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地図データ作成事業者	カーナビ事業者	居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時(警戒期、応急対応期)
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	ユーザからのアクセス時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	業者オフィス等	業者オフィス等	自宅、移動中
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット等	PC、PDA、携帯電話、カーナビ等

タイトル	カーナビを利用した走行危険箇所情報の提供		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゲリラ豪雨情報、水没危険アンダーパス道路リスク情報及び車両走行位置が照合され、危険箇所走行が予測されるときに、ドライバに停止(進入禁止)警告を行う。</li> <li>●ゲリラ豪雨発生時に、しきい値を超えたエリアにいる利用者は、自動的に警報メールが送られる(エリアメール)。</li> <li>●ゲリラ豪雨時に、運転者に対して迅速に冠水危険アンダーパス道路の位置情報を提供する。また、危険があるエリアの居住者・移動者に対して、危険を周知する情報を迅速に伝達する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、その他公共施設、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる公共施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)、地すべり危険箇所(範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、...)、渋滞情報</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	運転者に対して迅速に冠水危険アンダーパス道路の位置情報を提供。危険があるエリアの居住者・移動者に対しての周知・伝達		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地図データ作成事業者	カーナビ事業者	移動者、居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期	警戒期
	具体的なタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	豪雨発生時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	事業者のオフィス等	事業者のオフィス等	野外(移動中)、乗用車内
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット等	カーナビ、携帯電話(専用を含む)

タイトル	地上波デジタルのデータ放送を利用した警報等の発信		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地デジTV に居住地の情報を入力する。</li> <li>●ワンセグの場合はエリアスキャンを実施し、利用できるチャンネル情報を取得しておく。</li> <li>●居住者は、TV や携帯電話(ワンセグ)にて番組を受信し情報を取得する。</li> <li>●TV のデータ放送など通じて居住地域での警報等発令状況を確認する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...)、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)、鉄道運行情報(鉄道会社名、復旧見通し、...)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	TV のデータ放送など通じて居住地域での警報等発令状況を確認		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	TV局、携帯電話事業者	TV局、携帯電話事業者	居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期	警戒期
	具体のタイミング	警戒発令時	警戒発令時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	放送局、携帯事業者オフィス	放送局、携帯事業者オフィス	野外(移動時)
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、TV制作機器等	TV電波	テレビ(地デジ)、携帯電話(ワンセグ)

タイトル	災害発生直後の避難支援		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地理状況に詳しくない外出者の避難の支援に資するため、最も近い避難場所とルート等についてわかりやすい情報を提供。</li> <li>●災害発生直後に、携帯電話、カーナビ等を通じて、最も近い避難場所とルートに関する情報を得る。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、…、床上浸水棟数、床下浸水棟数、…)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、…)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模…)、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し…)、通行規制情報(規制状態、規制時間、…)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線…)、鉄道運行情報(鉄道会社名、復旧見通し、…)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	災害発生直後に携帯電話・カーナビ等で避難場所とルートに関する情報を取得		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地図データ作成事業者	携帯電話事業者 カーナビ事業者	移動者、旅行者、居住者、住民 団体・NPO
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期、応急対応期	警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	-	避難場所照会時 避難場所確認時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	オフィス	オフィス、データセンタ等	野外、移動中
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯電話、 カーナビ等

タイトル	インフラ復旧情報のリアルタイム提供		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路、交通、電気・ガス・水道・通信インフラ等ライフライン等の復旧の見通しや復旧状況の現況把握等に関する情報を、包括的にマッピングする。・復旧状況や復旧見通しに関する情報は、リアルタイムに更新される。</li> <li>●災害発生後の、道路、交通、電気・ガス・水道・通信インフラ等の復旧状況や復旧の見通し等を把握するための情報を入手・確認する(被災地の復旧、復興の応援、BCP等に利用)。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:</li> <li>●【洪水被害想定データ】:</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路、...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)、鉄道運行情報(鉄道会社名、復旧見通し、...)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	災害発生後のインフラ等の復旧状況や復旧の見通し等を把握するための情報を入手・確認		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、関連企業	Webサービス事業者	行政機関、住民団体・NPO、関連企業
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	応急対応期、復旧期、復興期	応急対応期、復旧期、復興期
	具体のタイミング	リアルタイム更新	復旧情報照会時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	事務所、オフィス等	事業者オフィス、データセンタ等	自宅、野外
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	PC、TV制作機材等	インターネット、資料等	インターネット、資料、テレビ(地デジ)

タイトル	救援物資情報のリアルタイム共有		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政機関、住民団体・NPO 等で確保・寄付等で集積している救援物資の内容・量、放出・提供可能な救援物資の内容・量、利用可能な運送手段等に関する情報を、マップ上で共有・管理する。</li> <li>●避難所間での情報共有により、収容すべき避難者グループ・位置・人数、避難所における収容可能な員数やリアルタイムでの空き情報、通行・歩行可能なルート情報、利用可能な交通手段等に関する情報を、マップ上で共有・管理する。</li> <li>●救援物資の状況及び避難施設の状況に関するリアルタイムの情報共有による、臨機応変な物流管理、避難誘導、避難所運営等を行う。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：</li> <li>●【洪水被害想定データ】：</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	救援物資の状況及び避難施設の状況に関するリアルタイムの情報共有による、臨機応変な物流管理、避難誘導、避難所運営等の実施		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、住民団体・NPO	行政機関	住民団体・NPO
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期、応急対応期	警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	リアルタイム更新	救援物資管理支援時 救援物資確認時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	行政機関ホームページ等	避難先、自宅、野外等
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、携帯電話等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末、カーナビ等

タイトル	仮設トイレ情報のリアルタイム共有		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害発生時の救援物資の配布が受けられる場所、仮設トイレの場所などをマップ上に表示する。</li> <li>●災害発生時における、生活必要物の入手場所(仮設トイレの位置、救援物資の配布場所等)に関する情報を確認する。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:</li> <li>●【洪水被害想定データ】:</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	災害発生時における、生活必要物の入手場所の確認		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関	行政機関	居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期、応急対応期	警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	リアルタイム更新	避難者・帰宅困難者への情報提供時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	行政機関ホームページ等	-
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、携帯電話等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯電話等

タイトル	被害情報の統合管理		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害発生直後における、応急対応部隊からの情報に加え、住民・企業からの情報提供も利用する(地上～屋内/地下等のシームレス空間における被災現場からの時刻・位置に紐づいた被災(初期)情報の収集)。</li> <li>●住民・企業から提供される緊急事態や物理的現象・変化に関する自然言語的な表現を、標準的な表現に翻訳する。</li> <li>●上記情報や防災マニュアルを活用して、住民に的確な情報を提供する。</li> <li>●災害発生直後における、住民や企業からの情報提供を含めた、被災現場からの情報の収集、事態把握及びそれに基づく住民への的確な情報提供</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:</li> <li>●【洪水被害想定データ】:</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	災害発生直後における、住民や企業からの情報提供を含めた、被災現場からの情報の収集、事態把握及びそれに基づく住民への的確な情報提供		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、企業、住民団体・NPO、居住者	行政機関、Webサービス事業者	行政機関、企業、住民団体・NPO、居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期、応急対応期	警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	住民・企業からの報告時	情報提供支援時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	-	-
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末等

タイトル	携帯電話のGPSを利用した住民被害予測		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時に携帯会社(携帯基地局端末)を通して住民位置の情報( 地区に 人等)を取得し、平常時の住民位置情報やリスク情報と重ね合わせることで、被害の範囲等を評価する。</li> <li>●携帯電話の位置情報と災害リスク情報を組み合わせた動的な被害想定(災害直後の応急対応部隊等の展開の際に利用)</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用目的	携帯電話の位置情報と災害リスク情報を組み合わせた動的な被害想定		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関、携帯電話事業者	サービス事業者	行政機関
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時 応急対応期、復旧期	応急対応期、復旧期
	具体のタイミング	被害想定時、被害評価時	被害想定時、被害評価時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	-	行政機関の事務所
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、携帯電話等	インターネット、衛星通信等	PC、携帯電話等

タイトル	総合的地図プラットフォームの開発		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平時はハザードマップ、災害発生時にはそれに加えて、災害情報の表示、避難情報表示に切り替えられる、総合的地図プラットフォーム。さらには、平時には観光情報や住民サービス情報等、地図として表現できるあらゆる情報を同じプラットフォーム上で利用できる(利用者に応じて地図のレイヤ切替が可能とする機能により、居住者・地方公共団体職員など全ての利用者が共通のプラットフォームを利用でき、共通的・総合的な災害情報マップ・ひいてはあらゆる地図情報のプラットフォームとなる)。</li> <li>●特定のポータルサイトには依存せず、災害時には(ポータルを利用しない)スタンドアロンでの動作も可能とし、しかも様々な利用者端末に実装できる、国際的に標準化されたプラットフォーム</li> <li>●地図の配信・表示に関する総合的地図プラットフォームの開発(SVGを基にした2次元の地図プラットフォーム(SVG Map)の開発)</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊、流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域被害額メッシュ(一般資産額、農作物被害額、公共土木施設被害額)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】:土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(保全対象、公共施設、災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(保全対象、公共施設、災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(保全対象人家戸数公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	地図の配信・表示に関する総合的地図プラットフォームの開発		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地方自治体等	SVG Mapサービス事業者	居住者、地方自治体等
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時、警戒期、応急対応期	平常時、警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	平常時にハザードマップを整備、災害時には災害情報レイヤを追加	-
利用する場所(避難所、自宅、野外等)	避難所、自治体事務所、野外等	データセンタ等	避難所、自宅、野外等
利用する方法(携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	PC、携帯端末、カーナビ、等

タイトル	孤立回避のための避難支援情報の提供		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土砂災害時に行く手を阻まれ陸の孤島となり、その先の状況、どこに向かって避難したらよいか、周辺の状況は、家族、関係者は大丈夫だろうか等々情報が寸断される。このような場合に情報を提供することで、被災者にとっては、安心し、次の行動を行うことが出来る。</li> <li>●市民が陸の孤島となってしまった際の情報提供と避難誘導。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、…、床上浸水棟数、床下浸水棟数、…)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、…)</li> <li>●【洪水被害想定データ】：浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模…)、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し…)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路…)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線…)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	居住域が陸の孤島となってしまった際の情報提供と避難誘導		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	行政機関 地図データ作成事業者	Webサービス事業者、TV局、ラジオ局、携帯電話事業者、地域SNS	移動者・旅行者、居住者
利用する時点、タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	応急対応期、復旧期	応急対応期、復旧期
	具体のタイミング	土砂災害発生時	避難支援情報提供時
利用する場所(避難所、自宅、野外等)	-	-	野外等
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、防災無線等	カーナビ、携帯端末、TV、ラジオ、防災無線等

タイトル	建物・構造物の名称とGPS 座標との対応付けによる建物の位置確認		
概要	<p>●震災時に建物が倒壊した場合、火災によって焼失した場合、また洪水時に冠水した場合等においては、目標物がなくなってしまうためGPSによって得られた座標と現地での位置・地図との対応が困難になる。こうした事態を防ぐため、座標と個々の建物との対応がとれるようGIS上にデータを作成しておき、災害時にGPSによる座標を用いた作業が迅速に行えるようにしておく。</p> <p>●応急対応活動において、壊滅的地震・洪水により認識不可能になった建物・構造物の位置確認のための、建物・構造物の名称とGPS座標との対応付け。</p>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：</li> <li>●【洪水被害想定データ】：</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	応急対応活動における建物・構造物の名称とGPS座標との紐付け		
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地方自治体、地図データ作成事業者	Webサービス事業者	地方自治体、中央省庁
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	応急対応期、復旧期	応急対応期、復旧期
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを作成	建物位置確認時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	役所、官庁等	データセンタ等	役所、官庁、被災現場調査時
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GPS、GISソフト、携帯電話等	インターネット、資料等	PC、携帯端末等

タイトル	災害情報データベースの公開		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害情報データベースを災害・防災関係以外の学部・学科、研究所、学会等(国内外)に公開し、自然災害による被害の規模や範囲を小さくする手法や仕組みを学際的に研究開発する。海外からの研究者にもインターネット経由で参加を可能とし、知識の共有化をはかる究用災害情報データベース提供システムの開発を行う。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、液状化メッシュ(液状化危険度)、津波水位(津波影響開始時間、津波到達時間、最大津波水位、最大津波波高)、津波浸水想定区域(浸水深、浸水時流速、浸水開始時間、浸水危険度)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、…、床上浸水棟数、床下浸水棟数、…)、火災被害メッシュ(全出火件数、焼失棟数、…)</li> <li>●【洪水被害想定データ】：浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模…)、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、地下鉄浸水被害(対象路線名、浸水状況、条件)、浸水想定区域被害額メッシュ(一般資産額、農作物被害額、公共土木施設被害額)、浸水想定区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水想定区域エリア(浸水深レベル、流速レベル、浸水継続時間)、浸水実績区域メッシュ(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、浸水実績区域コンター(浸水深、流速、浸水継続時間)、浸水実績エリア(浸水深)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：土砂災害警戒区域(自然現象の種類、区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、土砂災害特別警戒区域(自然現象の種類、特別警戒区域内保全人家戸数、区域内に存在する施設数、範囲)、砂防指定地(範囲)、急傾斜地崩壊危険区域(範囲)、地すべり防止区域(範囲)、土石流危険渓流(当該渓流にかかる保全対象、当該渓流にかかる公共施設、当該渓流にかかる災害弱者施設、範囲)、急傾斜地崩壊危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、当該箇所にかかる公共施設、当該箇所にかかる災害弱者施設、範囲)、地すべり危険箇所(当該箇所にかかる保全対象、範囲)、雪崩危険箇所(当該箇所にかかる保全対象人家戸数、当該箇所にかかる公共施設、範囲)</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し…)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路…)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線…)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	研究用災害情報データベース提供システムの開発		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	研究機関、学会、大学、研究者、関連企業等	任意の運営団体	研究機関、学会、大学、研究者、関連企業等
利用する時点、タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	平常時	平常時
	具体のタイミング	-	研究開発支援時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	運営団体サーバ	-
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	地積測量図の世界測地系座標化促進による境界移動の復元		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東海地震域における地震に伴う土地の移動の復元を容易にするための、地積測量図の世界測地系座標化を促進する。</li> <li>●地震等の災害で境界が不明になった場合の境界移動を復元できる仕組み作り。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：</li> <li>●【洪水被害想定データ】：</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	地震等の災害で境界が不明になった場合の境界移動を復元できる仕組み作り		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	登記所	Webサービス事業者	居住者、登記所
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	復興期	復興期
	具体のタイミング	-	境界確認支援時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	登記所	WebGISサーバ	居住者の自宅、登記所
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	災害の検知・予測のためのモニタリング技術による災害検知・予測		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地震／噴火／地すべり等の自然災害を対象とし、防災観測システムを設置し、地表の移動・振動・温度等を測定することで、災害の検知・予測を行い、住民等の早期避難等による減災に結びつける。人が立ち入れない場所(火山の火口、地すべり現場など)に、観測機器(無線誘導型又は航空機投下型)を設置し、無線通信で観測データを収集することが特徴であり、観測機器には、衛星測位受信機を搭載し、高精度測位を行う。</li> <li>●災害の検知・予測のためのモニタリング技術。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】：</li> <li>●【洪水被害想定データ】：</li> <li>●【土砂災害被害想定データ】：</li> <li>●【道路・公共交通機関被災データ】：</li> </ul>		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	災害の検知・予測のためのモニタリング技術		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	地方自治体、中央省庁等	地方自治体、中央省庁等	地方自治体、中央省庁等
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	警戒期、応急対応期	警戒期、応急対応期
	具体のタイミング	災害発生後に随時更新	災害情報観測時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	災害現場	省庁等のサーバ室	役所、官庁等
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、特殊観測機器(無線通信、衛星測位)、センサーネットワーク等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル	SNS等を利用した災害モニタリング情報の共有		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●洪水などでも河川周辺に居住している方が危険を伴わない程度(家の中から目視)にモニタリングできたらその状況を報告する。</li> <li>●災害直後の住民等間での被災状況に関する情報の伝達・共有に資するSNSの活用。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	●【道路・公共交通機関被災データ】:道路被害情報(被害内容、被害箇所、復旧見通し...)、通行規制情報(規制状態、規制時間、迂回路...)、渋滞情報(渋滞状況、対象路線...)		
追加すべき 情報項目			
利活用の目的	住民等間での被災状況の共有におけるSNSの活用。		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	情報提供者(居住者等)	SNSサービス事業者	居住者
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	応急対応期	応急対応期
	具体のタイミング	堤防決壊など被害発見時	災害情報共有時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	避難所、自宅、野外等	データセンタ等	避難所、自宅、野外等
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト、携帯電話等	インターネット、資料等	インターネット、資料、携帯端末等

タイトル	建物補強のための地籍調査		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事前に輸送路周辺の建物等の状況を調査し、倒壊の恐れのある建物等を補強しておく。そのための事前調査として、国の地籍調査における官民境界先行型事業等を活用する。</li> <li>●東海地震域における緊急輸送路確保のための「防災地籍調査」の実施。</li> </ul>		
情報項目 (事務局想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【地震・津波想定データ】:地震動等メッシュ(震度、地表最大加速度、SI値)、建物被害メッシュ(全壊棟数、半壊棟数、...、床上浸水棟数、床下浸水棟数、...)</li> <li>●【洪水被害想定データ】:浸水想定区域メッシュ(浸水深、流速、歩行困難度、家屋倒壊・流出の危険性、浸水継続期間、設定条件(破堤からの時間、洪水規模...))、破堤箇所(破堤点名、河口からの距離、左右岸)、浸水想定区域被害メッシュ(床上浸水家屋数、床下浸水家屋数、死者数、孤立者数)、避難時危険箇所ポイント(危険箇所種別)、避難時危険箇所ライン(危険箇所種別)</li> </ul>		
追加すべき情報項目			
利活用の目的	東海地震域における緊急輸送路確保のための「防災地籍調査」		
利活用場面に係る主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
	国(地籍調査)を災害対策機関が利用	災害対策機関(国、中央省庁、地方自治体等)	被災者、居住者、自治体等
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)	応急対応期	応急対応期
	具体のタイミング	事前にサービス対象範囲のデータを収集	建物補強計画立案時
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)	-	-	緊急輸送路周辺
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)	GISソフト等	インターネット、資料等	インターネット、資料等

タイトル			
概要			
情報項目			
利活用の目的			
利活用場面に関係する主体(アクター)	データ作成・提供者	サービス提供者	エンドユーザ
利用する時点、 タイミング	フェーズ(平常時、発災時、発災直後、一定期間経過後)		
	具体のタイミング		
利用する場所 (避難所、自宅、野外等)			
利用する方法 (携帯電話、TV、ラジオ、広報車、等受け取る方法、ダウンロード等入手方法)			